

北陵高図書館だより

◇師走の話

◇高校生の好きな本は

◇職員寄稿 寺内美樹先生

◇新着図書一覧 Part.4



今年、あなたは何冊読みましたか？ 高校生の好きな本、君はまだか！

“図書委員会がネット選書を行いました”

師走とは、先生が忙して走り回るからというのとは間違いで、昔家々で師（こころは僧侶のこと）を迎えて読経などの仏事を行ったため、「師馳せ月」と言ったのを誤ったものだという説明が辞書にあったが、これもどうも確かとはいえないらしい。ただ、昔はお盆と年末に家ごとに先祖の霊をまつる「御魂祭り」という行事があった、それがお歳暮につながるというのは間違いではない。つまり、年末にも故人を偲ぶということはあるのだ。コロナの災厄が続く、思うような日々を送ることができない無念を思う時、多くの人が失われ、傷ついた一年を祈りたい。

図書委員会では書店で図書選定をすることも多いのだが、現況では難しく、試みに「GIGAタブレット」を使ってネット上の図書選定を行いました。本を手にとることは出来ませんが、それぞれの担当分野に分かれ、内容紹介や書評を参考に候補リストを作成しました。実際の購入は検討の後になりますが、生徒の視点から選定をすることは来年以降も実施していきたいと思います。

『こどもの読書の状況』（SLB）という調査によれば、高校生の一ヶ月平均読書冊数は約1.6冊、これはやや微増し、不読率も2014年以来49.8%と久しぶりに5割を切った。コロナ禍による在宅時間の増加などが反映されたものと考えられる。本誌裏面に「高校生が多く読んだ本」を紹介してあります。同じ学年の人が読んでいる本を手にとってみませんか？（※数字は出度数で比率を表す。）



職員寄稿
図書指導係
寺内美樹先生

初夏を迎えると夏みかんや梅の匂いがし、松井さんの運転するタクシーが目の前を通り過ぎる予感がします。秋にはコスモスがいっぱい咲いた庭から、平和な時代を生きるゆみ子が出てきそうだし、冬になると「手ぶくろを買いに」の子狐が、ほんとの手のほうを出してどこかで買い物をしているのではないかと思うことがあります。

私は小学生の頃から、国語の教科書の作品を読むことがとても好きで、学生時代に習った作品から、教壇に立つて授業で扱った作品ま

で全てを覚えています。覚えていて、というより体に染みこんでいくような感覚です。何年頃にその作品と出あって、どんな挿絵や写真が載っていたかまで、鮮明に思い出出すことができます。私にとって、国語の教科書は、まさに「文学の宝石箱」だからです。

「文学作品との出会い」は人それぞれで、幼い頃に親に薦められた本、自分が興味を持って購入した本、読書感想文を書くために読んだ本、誰かに頂いた本、など様々な場面を想像できますが、「国語の教科書の作品」という、学校で与えられる（学年で作品の難易度も変わっていくという）偶然の出会いには、私だけでなくたくさん

人の記憶に特別なものとして残っているのではないかと考えています。

毎年、担当するクラスの最初の授業にて「今まで学習した教科書の作品で、最も印象に残っているものは何か」という質問を投げかけると、たくさんさんの作品名があげられます。意外と小学生の頃に習ったものが多く、児童文学の趣深さを改めて実感します。

図書館では、そのなつかしい作品の数々と再会することが出来ます。高校生になって、また大人になっても、もう一度あの頃の自分の感性に返ってみるのも良いかもしれません。

新着本の紹介 part.4

11・12月に購入した49冊を紹介します。今年度予算での購入はあとわずかになりました。この新着図書紹介も今回が最後になります。

『ネットとSNSを安全に使いこなす方法』ルーイ・ストウエル 東京書館

『世にも奇妙な博物館 ―未知と出会う55スポット―』 丹治俊樹

『他者の靴を履く―アナーキック・エンパシーのすすめ―』 ブレイディみかこ 文藝春秋

『100の思考実験―あなたはどこまで考えられるか―』 ジュリアン・バジーニ 紀伊國屋書店

『よくわかる思考実験』 高坂庵行 イースト・プレス

『お寺の掲示板諸法無我』 江田智昭 新潮社

『ヤングでは終わらないヤングケアラ―きょうだいヤングケアラのライフステージと葛藤』 仲田海人 クリエイツかもかわ



『100万回死んだねこ―覚え違いタイトル集―』 福井県立図書館 講談社

『文豪たちの友情』 石井千湖 新潮社

『赤と青とエスキース』 青山美智子 PHP研究所

『鎌倉つづまき案内所』 青山美智子 宝島社

『非日常の謎―ミステリアンソロジー―』 若沢史 他 講談社

『民王―シベリアの陰謀―』 池井戸潤 KADOKAWA

『ペッパーズ・ゴースト』 伊坂幸太郎 朝日新聞出版

『変な家』 雨穴 飛鳥新社

『さよならも言えないうちに』 川口俊和 サンマーク出版

『砂に埋もれる犬』 桐野夏生 朝日新聞出版

『雨上がり、君が映す空はきつと美しい』 汐見夏衛 スターツ出版

『元彼の遺言状』 新川帆立 宝島社

『倒産続きの彼女』 新川帆立 宝島社

『海神』 染井為人 光文社

『グッド・バイ』 太宰治 新潮社

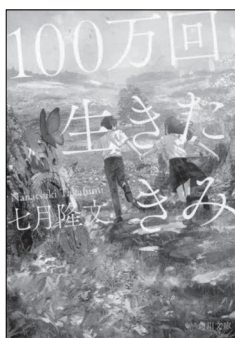
『仮面病棟愛蔵版』 渡部泰明 他 岩波書店

『闇祓』 辻村深月 KADOKAWA

『ガラスの海を渡る舟』 寺地はるな PHP研究所

『文豪と感染症―100年前のスペイン風邪はどう書かれたのか―』 永江朗 朝日新聞出版

『100万回生きたきみ』 七月隆文 KADOKAWA



『夜が明ける』 西加奈子 新潮社

『三千円の使いかた』 原田ひ香 中央公論新社

『総理の夫』 原田マハ 実業之日本社

『さよならの夜食カフェ』 古内一絵 中央公論新社

『アホか。』 百田尚樹 新潮社

『星を掬う』 町田そのこ 中央公論新社

『ミッキーマウスの憂鬱ふたたび』 松岡圭祐 新潮社

『命売ります』 三島由紀夫 筑摩書房

『N』 道尾秀介 集英社

『小説アナと雪の女王』

『小説アナと雪の女王―影のひそむ森―』

『小説アナと雪の女王2』 ウォルト・ディズニ―・ジャパン KADOKAWA

『君は月夜に光り輝く』 人間失格 11

『オルタネット』 人間失格 11

『君の罪をたべたい』 人間失格 10

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら』 人間失格 9

『5分後に意外な結末』 人間失格 9

『星の王子さま』 人間失格 8

『かがみの孤城』 人間失格 7

『ハリー・ポッター』 人間失格 7

『君は月夜に光り輝く』 人間失格 15

『君の罪をたべたい』 人間失格 12

『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?』 人間失格 12

『転生したらスライムだった件』 人間失格 11

『マスカレードシリーズ』 人間失格 12

『探偵ガリレオシリーズ』 人間失格 10

『君は月夜に光り輝く』 人間失格 11

『オルタネット』 人間失格 11

『君の罪をたべたい』 人間失格 10

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら』 人間失格 9

『5分後に意外な結末』 人間失格 9

『星の王子さま』 人間失格 8

『かがみの孤城』 人間失格 7

『ハリー・ポッター』 人間失格 7

『君は月夜に光り輝く』 人間失格 15

『君の罪をたべたい』 人間失格 12

『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?』 人間失格 12

『転生したらスライムだった件』 人間失格 11

『マスカレードシリーズ』 人間失格 12

『探偵ガリレオシリーズ』 人間失格 10

『君は月夜に光り輝く』 人間失格 11

『オルタネット』 人間失格 11

『君の罪をたべたい』 人間失格 10

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら』 人間失格 9

『5分後に意外な結末』 人間失格 9

『星の王子さま』 人間失格 8

『かがみの孤城』 人間失格 7

『ハリー・ポッター』 人間失格 7

『君は月夜に光り輝く』 人間失格 15

『君の罪をたべたい』 人間失格 12

『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?』 人間失格 12

『転生したらスライムだった件』 人間失格 11

『マスカレードシリーズ』 人間失格 12

『探偵ガリレオシリーズ』 人間失格 10
